

登録コード	E8264400	開講年度	2026			
授業科目	卒業研究				担当教員	野口 舞子
英文授業名	Graduation Study				副担当	
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室	教育研究室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	2 6 E カリ, 2 5 E カリ, 2 4 E カリ, 2 3 E カリ, 2 2 E カリ, 2 1 E カリ, 2 0 E カリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				・歴史資料に誠実に向き合い、自身の歴史像を構築し、論理的に説明する力を身につける（達成目標 ）。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				・歴史教育を支える、歴史事象に対する分析を文章で適切に表現できるようになる（達成目標 ）。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	・ 先行研究を批判的に精読し、研究上の課題を提示する。 ・ 研究室および社会科教育コースの報告会で、自身の研究内容を発表する。 ・ 歴史資料に基づいて、外国史のテーマに関する論文を書く。					
(5)授業計画	第 1 回：オリエンテーション（分担、報告方法の確認、研究テーマの共有など） 第 2 回：卒論構想および進捗報告（古代・中世） 第 3 回：卒論構想および進捗報告（近世・近代） 第 4 回：古世史の文献報告（外国語文献） 第 5 回：中世地中海史の文献報告（外国語文献） 第 6 回：中世ヨーロッパ史の文献報告（外国語文献） 第 7 回：近代アジアの文献報告（外国語文献） 第 8 回：近代ヨーロッパの文献報告（外国語文献） 第 9 回：大戦に関する文献報告（外国語文献） 第10回：卒論進捗報告（古代・中世） 第11回：卒論進捗報告（近世・近代） 第12回：古代・中世史の追加文献報告（日本語文献） 第13回：近世・近代史の追加文献報告（日本語文献） 第14回：先行研究の分析に関する総合討論 第15回：古代史・中世史の史料分析 第16回：近世史・近代史の史料分析 第17回：卒業研究の執筆方法の確認と演習 第18回：古代史・中世史の追加読解報告（外国語文献） 第19回：近世史の追加読解報告（外国語文献） 第20回：近代史の追加読解報告（外国語文献） 第21回：古代史・中世史の進捗報告 第22回：近世史・近代史の進捗報告 第23回：第21・22回で浮かび上がった課題への分析報告 第24回：注や参考文献の書き方の確認、相互チェック 第25回：結論の検討会 第26回：序論の検討会 第27回：卒業論文報告会準備 第28回：卒業論文報告会（社会科教育コース） 11月中～下旬に、コース全体で中間報告会、2月上旬に卒業研究報告会を行う。 最後の報告の回で、授業アンケートを実施する。					
(6)成績評価の方法	・ 下記の社会科教育コースの基準によって評価する。 授業の達成目標 の到達度を測る卒業論文の内容 40点 授業の達成目標 の到達度を測るプレゼンテーション・卒研報告会 40点 授業の達成目標 の到達度を測る取り組みの過程 20点 ・ 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀、89-80％ 優、79-70％ 良、69-60％ 可、59％以下 不可。					
(7)成績評価の基準	・ (i)問題の設定が適切であり、(ii)その問題の背景を説明できており、(iii)その問題にどのような課題があるのかを指摘でき、(iv)それらの課題に対しての既存の学説が提示する解決法を適切に把握し、(v)その上で自分の見解を提示できており、かつ高度に学術的な意義を有すると判断できるものは「卓越している」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」。 ・ 上記に加えて、下記の社会科教育コースの評価基準により、総合的に評価する。 1．先行研究を踏まえているか（検索、収集、理解など）					

(7)成績評価の基準	2．研究方法は適切か（データ収集・分析、フィールド、文献（論文、史料、資料）の扱い方など） 3．独自性があるか（テーマ、問題設定、視点、発見、考察など） 4．論旨は明確か（論理性、表現など） 5．形式は整っているか（構成、分量、誤字・脱字、注、文献リストなど） 6．研究倫理は守られているか（合法性、引用ルール、コピー禁止など）
(8)事前事後学習の内容	・事前：先行研究および史資料の収集と読解を日常的に行う。 ・事後：報告・討議を受けて明確化した課題について再検討する。 この授業は 225 時間の学修を必要とする内容である。従って、150 時間以上の時間外学習が必要となる。
(9)履修上の注意	原則として外国史の卒業研究を行う学生に限る。
(10)質問，相談への対応及び連絡先	・オフィスアワー：M315研究室、平日在室時は随時。 ・連絡先：noguchi_maiko@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	・指定しない。
【参考文献】	・適宜紹介する。